

地域のお祭りを対象とした Web3DAO による 体験価値向上とビジネスへの取り組み

Enhancing Local Festival Experiences and Regional Business via Web3 DAO: A Case Study of the Nebuta Matsuri DAO

当社では、地域のお祭りを対象とした Web3 技術および DAO（分散型自律組織）を活用した「お祭り DAO」による体験価値向上とビジネスへの取り組みを進めている。地方創生の課題である人口減少や高齢化、地域活力の低下に対し、DAO を用いた新たなコミュニティ形成や関係人口の拡大、参加型運営による地域活性化の可能性を模索中であり、青森ねぶた祭での「お祭り DAO」アプリ実証試験では、写真投稿や投票、トークンによる報酬設計などを通じて、参加者の新たな体験の創出をめざしている。また、農業や都市再開発など他分野への DAO 応用事例も紹介し、意思決定の透明性や多様な関係人口の創出、資金調達の柔軟性など DAO の利点を見出している。今後は、技術・運営ノウハウの蓄積を進め、社会貢献とビジネス化の両立をめざす。

勝倉 真 Katsukura Makoto
若松 正浩 Wakamatsu Masahiro

1. はじめに

当社は「Vision for 2030」として「新たな価値ですべての人を笑顔に。」を掲げ、Happy・Smile・Enjoyという価値観を基盤に、地方創生の観点から社会課題の解決に取り組んでいる。日本の地方では、人口減少や高齢化による地域活力の低下が深刻化している。これらの課題に対し、持続可能な地域運営や新たなコミュニティ形成が不可欠となっている。地方創生の現場では、従来の行政主導型の施策だけでは限界が見え始めている。住民や関係人口が主体的に関わる仕組みが求められており、デジタル技術の活用による新しいアプローチが注目されている。

2. 地方創生で利用される DAO

(1) DAO とは

DAO（Decentralized Autonomous Organization：分散型自律組織）は、ブロックチェーン技術を活用した新しい組織運営形態である。中央管理者を持たず、参加者全員がトークンを用いて意思決定に関与する。スマートコントラクトによる自動化や、取引履歴の透明性が特徴である。DAO は、コミュニティ運営の透明性・参加性を

高め、持続可能な地域運営の新しい形として世界的に注目されている。

(2) 国内事例

国内でも DAO を活用した地方創生の事例が増えている。代表的な事例を以下に示す。

- ・山古志 DAO¹⁾（新潟県長岡市）：錦鯉 NFT の販売、デジタル住民による投票参加
- ・FurusatoDAO²⁾（岩手県紫波町）：地域通貨 NFT の発行、デジタルアートの NFT 化
- ・美しい村 DAO³⁾（鳥取県智頭町・静岡県松崎町）：観光・体験資源の NFT 化、DAO によるプロジェクト運営

3. 地方創生のためのお祭り DAO

お祭り DAO は、地域の伝統行事やイベントを DAO で運営し、NFT やブロックチェーンを活用することで、従来の枠組みを超えた体験価値と地域活性化をめざす仕組みである。NFT による参加証明や限定コンテンツ、ブロックチェーンによる透明な意思決定と報酬分配により、参加者や関係人口が主体的に関わる環境を実現する。これにより、地域コミュニティの持続性や魅力向上につながる。以下、DAO 導入による主なメリット 4 点を詳述

する。

1. イベント支援(企画・運営への意見反映, 愛着形成)
DAO を活用することで, 参加者は企画や運営に直接意見を反映できる。従来のイベント運営は主催者中心だったが, DAO ではトークン保有者やコミュニティメンバーが投票や提案を通じて意思決定に参加する。これにより, 参加者自身がイベントの方向性や内容に関与できるため, 愛着や責任感が生まれる。地域外のファンもオンラインで参加できるため, 多様な視点が集まり, より魅力的なイベントづくりが可能となる。
2. 楽しみながら貢献(貢献の記録と評価による達成感)
DAO では, 参加者の貢献がトークンなどのデジタル資産として記録・評価される。例えば, 祭りの準備や運営, SNS での情報発信, ボランティア活動など, 様々な形の貢献が可視化される。貢献度に応じて報酬や特典が与えられるため, 参加者は楽しみながら地域に貢献できる。自分の活動がコミュニティに認められることで, 達成感や誇りを感じることができる。
3. つながり強化(多様なステークホルダーとの交流)
DAO は, 地域住民, 企業, 行政, ファンなど多様なステークホルダーが同じプラットフォーム上で交流できる場を提供する。従来の祭りは地域内のつながりが中心だったが, DAO を活用することで, 地域外の人材やファンなども巻き込むことができる。オンラインコミュニティや SNS を通じて, 情報共有や意見交換が活発になり, 地域の枠を超えた新しいネットワークが形成される。
4. 特典の受領(トークンによる報酬獲得と地域利用)
DAO では, 参加や貢献に応じてトークンや NFT などの報酬が与えられる。これらのデジタル資産は, 地域通貨や限定グッズ, 体験チケットなどと交換できる場合もある。報酬は地域内で利用できるため, 経済循環の促進や地域産業の活性化につながる。参加者は単なる消費者ではなく, 地域経済の担い手としての役割も果たすことができる。

4. ねぶた祭 DAO アプリ実証試験

2025 年 8 月 2 日～8 月 7 日に青森ねぶた祭期間中, 日立関係者を対象に「ねぶた祭 DAO アプリ」の実証試験を実施した。この実証は, DAO を活用した地方コミュニティ主導の地方創生の可能性と, RWA (Real World Assets) によるコミュニティ資産活用の技術検証を目的

としている。アプリの特徴を以下に示す。

- (1) 参加証 NFT 発行機能
祭り会場に設置された二次元バーコードをスマートフォンで読み取ることで, ブロックチェーン上にデジタル参加証 (NFT) が発行される。これは紙の参加証に代わるもので, 改ざん不可能なデジタル来場記念となる。
- (2) 写真 NFT 化・共有機能
祭りの様子をスマートフォンで撮影し, アプリに投稿すると, その写真に対応する NFT が発行される。投稿写真は実証実験用の Instagram アカウントを通じて世界中に共有される。
- (3) SNS 評価・NFT 報酬機能
Instagram に投稿された写真は「いいね!」数を評価指標として集計し, 評価結果に応じた価値が写真 NFT に付与される(すなわち, SNS 評価が報酬につながる枠組みである)。これにより, 参加者のエンゲージメント向上を図っている。
- (4) ThingsToken 技術の活用
ぷらっとホーム社が開発した ThingsToken 技術を基盤としている。これは現実世界の「モノ」を起点とした関係をデジタルで記述するトークン技術であり, 参加者は祭の体験(写真, 動画, 記念品)や貢献(行動記録)をデジタル資産として保持できる。
- (5) セキュリティ・プライバシー対策
写真投稿における権利処理やプライバシー保護についても十分に検討し, 安心・安全な運営体制を整備している。



図 1 ねぶた祭 DAO アプリ



図 2 投稿された写真

実証成果は以下の通りである

- * 実験参加者数：48 名
- * 写真投稿数：48 件
- * いいね総計：299 件

5. お祭り DAO の今後の展開

実証試験で得られた知見をもとに、以下の展開が期待される。

まず、スマートフォンアプリを活用した参加証 NFT や写真 NFT の発行・共有機能は、他の地域のお祭りやイベントにも応用可能である。参加者が自分のスマートフォンで簡単に体験を記録し、コミュニティに貢献できる仕組みは、祭りの魅力発信や関係人口の拡大に寄与する。今後は、アプリ画面や実際の Instagram 投稿写真を活用し、参加者の体験やコミュニティの盛り上がりを可視化することで、さらなる参加意欲の向上が期待できる。

また、DAO による企画・運営への意見反映や投票機能を拡充することで、地域住民やファンがより深くイベントづくりに関与できるようになる。これにより、祭りの内容や運営方法が多様化し、地域の特色や参加者のニーズに合わせた柔軟な運営が可能となる。さらに、トークンや NFT を活用した報酬設計や特典提供の仕組みを強化することで、参加者の貢献が地域経済に還元される循環モデルの構築をめざす。例えば、お祭り DAO で獲得したトークンを地域通貨や地元産品、体験チケットなどと交換できるようにすることで、地域産業の活性化にもつながる。

今後は、ねぶた祭 DAO の実証成果を踏まえ、他地域への展開や機能拡張、参加者層の拡大を進めていく。お祭り DAO が地域コミュニティの持続的な発展と

新たな価値創出の基盤となるよう、技術面・運営面のノウハウを蓄積し、さらなる社会実装をめざす。

6. DAO の社会実装にむけた活動

(1) 検討に至った背景と狙い

地方は人口減少・高齢化・地域活力の低下など社会課題が深刻化している。従来の行政主導型のまちづくりでは限界があり、住民・企業・行政が連携し、持続可能な地域運営を実現する新たな仕組みが求められている。Web3 技術による DAO は、意思決定の透明性や参加性、貢献度に応じた報酬設計、多様な関係人口の創出など地域課題解決に有効な手段として期待されている。

当社では、東北地区を中心に複数の DAO プロジェクトを推進し、社会貢献とビジネス創出の両立をめざしている。

東北地区では3つのコミュニティ活動を通じて、社会貢献や新たなビジネスを模索



図 3 東北地区の DAO 推進活動

(2) 当社の DAO 活動事例

①ねぶた祭 DAO の概要

先述した通りであるため、割愛する。

②石高 DAO の概要

福島県西会津町を舞台に、農業（稲作）課題の解決に取り組む DAO を運営。販路拡大、天候リスク分散、ボランティア活動支援など、デジタル技術を活用した新たな農業モデルを実現している。成果として関係人口 1,000 名超を創出、令和 6 年度の農業白書にも掲載されている。

【石高DAOアプリ 3つの特長】



1. コメのデジタルチケット販売 (今年度: 5kg 5,000円~)
2. 天候リスクを支援者に分散・受容
3. ボランティア活動にコメを提供

デジタル技術を活用した事例として
農業白書に掲載

【効果】

1. ファン(関係人口): 1,000名超、年々ファン増加
2. コメ農家のモチベーションが向上
3. 収穫感謝祭などのイベントも開催



越後会津米の収穫感謝祭(東京赤坂)

他の一次産業への応用先を検討

図 4 石高 DAO 特長と効果

③泉中央 DAO の概要

仙台市泉中央エリアの再開発と並行して仙台市と連携しながら、住民・企業・行政が連携する参加型運営モデルを検討中。第一ステップとして複合施設単位で DAO を導入し、住民投票や入居テナントの活性化を通じて持続可能な賑わい創出をめざす。最終目的としてエリア全体の DAO に複合施設単位の DAO を接続し、小さな DAO の成功を連鎖させることで地域全体の活性化を図る計画である。



図5 アーバン領域での DAO 推進活動

(3) DAO 社会実装の進め方と課題

DAO の社会実装には、ステークホルダー間の合意形成、運営ノウハウの蓄積、技術基盤の整備が不可欠である。泉中央 DAO では、マンション管理組合への DAO 導入や住民投票によるテナント選定など、透明性と参加性を高める仕組みを検討している。一方で、合意形成の難しさ、運営体制の構築、法制度面の課題なども顕在化している。

また、DAO の活動を持続可能なものとするためには、参加者のモチベーション維持や報酬設計、資金調達とリスク分散の柔軟性が重要となる。今後の社会実装には DAO の設計思想が成功可否を決める大きなファクタであると考えている。

7. DAO 推進活動の今後の展開

これまでの DAO 活動を通じて、以下の成果が得られた。

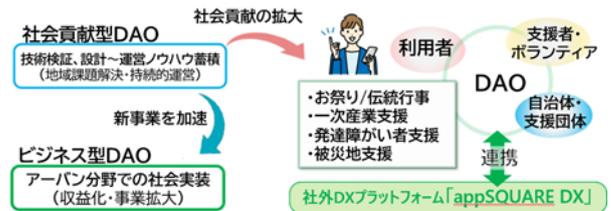
- (1) 地域課題に対する多様な解決策の創出
- (2) 関係人口の拡大と地域外からの参加促進
- (3) 体験価値の向上と地域コミュニティの活性化
- (4) デジタル技術を活用した新たな収益モデル構築

今後の DAO 推進活動では、これまでの実証・運営ノウハウや技術を集約し、社会貢献型 DAO とビジネス型 DAO の両立を支援する当社の DX プラットフォーム「appSQUARE DX」との連携を強化する。appSQUARE DX は、NFT 発行やトークン管理、投票・報酬設計など

DAO 運営に必要な機能を標準化・モジュール化して提供することで、各地域・分野の多様な DAO 活動を効率的かつ安全に支援する。これにより、個別 DAO の成功事例やノウハウを他地域・他分野へ横展開しやすくなり、地域課題解決と新たなビジネス創出の両立を加速する基盤となる。今後は appSQUARE DX を活用し、DAO 活動の持続可能性と社会実装の拡大をめざす。

図6 DAO 活動推進の考え方

社会課題先進地域で「社会貢献」と「事業化」を両軸で推進



8. 最後に

今後はねぶた祭 DAO の成果を活かし、他地域展開や機能拡張、参加者拡大をめざし、NFT や SNS 連携を強化して祭りの魅力発信と関係人口拡大を図る。また、DAO による意見反映や報酬設計を充実させ、地域経済への還元と持続可能な循環モデルの構築、技術・運営ノウハウの蓄積を通じて、地域社会への貢献と新たなビジネス創出の両立を実現していく。

参考文献

- 1) 山古志住民会議
<https://note.com/yamakoshi1023> (2025/12/2 閲覧)
- 2) Web3TownShiwa に関する取組
https://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/4_1/2_13_web3townshiwa/10069.html/ (2025/12/2 閲覧)
- 3) 美しい村 DAO
<https://beautiful-village.org/> (2025/12/2 閲覧)



勝倉真 1997 年入社
社会基盤ソリューション第三本部
ソリューション推進部
公共分野における新規ソリューション企画・開発



若松正浩 1989 年入社
イノベーション推進センター
事業部の新事業創出の企画立案、および事業拡大支援